

## 見どころ案内

### 展示会のご案内

◇展示資料館 1F (3/9~4/4)

「草木染の世界」展

◇展示温室 (3/9~4/17)

ゼラニウム展

### ミツマタ (ジンチョウゲ科)

中国原産の落葉低木で、枝が三つに分かれることからこの名があります。樹皮に丈夫な繊維があり、古くから和紙の原料とされ、特に高額紙幣に使われます。

### アラビス・フェルディナンディ コブルギィ (アブラナ科)

ブルガリア原産。ピリン山脈の標高 2000~2800 mの石灰岩地に群生します。ヤマハタザオのなかまで斑入り品種もあります。種小名は19世紀のブルガリアの王様に因みます。

### カラコエ (ベンケイソウ科)

マダガスカル原産の着生種ユニフローラなど貴重な野生種が咲いています。

### パフィオペディルム

パフィオの別名は、「女神のスリッパ」。多くの原種が咲いています。

### ピメント (フトモモ科)

ジャマイカ原産。果実は香辛料「オールスパイス」。ナツメグ・クローブ・シナモンを合わせた香味と胡椒の苦みがあることから、この名前がつけました。小さな花が咲いています。

### カンヒザクラ[寒緋桜] (バラ科)

花卉が開かないので、つぼみのようですが、真紅のカンヒザクラが満開です。中国南部から台湾が原産地です。沖縄の市街に多く植えられており、この桜の下でお花見を楽しみます。ソメイヨシノや彼岸桜のつぼみもほころび始めており、いよいよ桜の季節の到来です。

### ハナモモ (バラ科)

中国原産。日本には弥生時代に渡来したと言われています。白色から濃紅色の花を咲かせます。白色八重花の「関白」が見ごろです。

### カタクリ (ユリ科)

広島県(向原町)が分布の南限。春植物の一種で、淡紫色の可憐な花は必見です。

### トサノミツバツツジ

(ツツジ科)

紀伊半島・四国に分布するミツバツツジの変種。雄しべの本数が基本種の倍(10本)です。

### ハクモクレン(モクレン科)

中国原産の落葉高木。白い卵形の花がよく目立ちます。漢名を玉蘭といいます。

### トサミズキ (マンサク科)

名前のお通り、高知を中心とした四国山地の石灰岩地に多く生育しています。つり鐘状の淡い黄色の花が、鈴なりに咲いています。

### スモモ ハリウッド

(バラ科)

ハリウッドという名前からわかるように、欧州~西アジア原産のミラロバンスモモを米国で改良した品種です。スモモは自家不和性が強い(同品種の花粉では結実しない)ので、本種を受粉樹によく用います。葉が紅色を帯びるのも特徴です。

### ハナニラ (ヒガンバナ科)

アルゼンチン原産の球根植物。葉にネギのような臭いがあり、植えばなしでもよく増えます。花色は白・桃・青と様々です。クリスマスツリーの天辺を飾る八芒星の形に花が似ていることから、「ベツレヘムの星」とも呼ばれます。

